

地域で輝け

中高生リーダー

子ども会ジュニアリーダー研修会

町青少年育成ネットワーク（委員長・村木登教育長）主催の子ども会ジュニアリーダー研修会が3月18日から19日まで開かれました。参加者はレクリエーションなどを学ぶとともに、社会参加活動に対する理解を深めました。



初対面でも打ち解けられるレクリエーションを体験

町青少年育成ネットワーク主催の研修会は、各地区子ども会の中高生リーダーを対象に、国立岩手山青年の家で開かれました。町内の中学生十三人が参加し、子ども会で活用できるレクリエーションやペーパークラフト（紙細工）作りなどを学びました。また、グループごとに子ども会の活動プログラムの企画やポスターづくりをし、互いに発表し合いました。地域ぐるみの運動会や郷土の自然を満喫するサバイバルキャンプなど、活動のねらいや日程、内容、事後の活動について、熱心に意見交換が行



ペーパークラフトで「未来の葛巻町」づくり

われました。

OBが指導に活躍

この研修会で中高生の指導にあたったのは、ジュニアリーダーズクラブ「ドリーマー」のOB五人。

自らも高校時代、この研修会に参加したことがある伊藤隆教さん（22歳・江刈川）は、「参加者は、学校生活だけでは経験できないことをたくさん吸収し、自分自身を高めてくれると思う」と話していました。

研修は、子ども会活動に必要な知識や技術、社会参加活動に対する理解を深めることを目的に毎年開催しています。

俳句の楽しみ①

親子でこども会まなび

もんしろちょう
またべんきょうを
みにきたよ



教室の窓から、モンシロチョウがひらりと入ってきました。「なんだか勉強を見にきたみたい」という小学一年生の作品です。

◆ 小さな子どもは、思ったことをそのまま口にします。そのつがやきは、そのまま詩であり俳句であつたりします。

◆ あなたのお子さんやお孫さんも「お月様がボクのとからついてくる」とか言っています。周りの大人は、子どものこのような言葉を毎日のように耳にしています。驚きの言葉、感動の言葉、怒っている言葉、甘えている言葉にハツと気づかされる表現があります。そして、それは俳句の原型と言っているほど、リズム感のある言葉です。

大人は、その子どもたちの素直なつがやきや心の叫びに対して「うん、そうだよねえ」「そっか、すごいなあ」と、肯定的に受け止めてあげれば、子どもの俳句や詩の火種となります。

知っている単語の数はまだ多くありません。でも、その中から精一杯表現しているのです。そうしてだんだん言葉を覚えていくのでしょうか。子どもが小さければ聞き止めて俳句にしてあげられるし、五、六歳以上であれば、いっしょに考えて俳句をつくることもできます。そんな成長の記録なんてすてきですね。

（参考 蝸牛新社「小学生の俳句歳時記」）